

地震調査委員会の活動状況

平成30年8月20日
地震調査研究推進本部
地震調査委員会

平成29年8月18日の第54回政策委員会以降、これまでの地震調査委員会（委員長：平田直・東京大学地震研究所教授）の活動状況は以下の通りである。

1. 地震活動の現状評価の実施

地震調査委員会は、月例の委員会を開催し、全国の地震活動の現状について関係機関の観測データを分析し、これに基づき総合的な評価（現状評価）をとりまとめ、即日公表している。また、被害地震等の発生の際には臨時の委員会を開催し、地震活動の今後の推移等を含めた総合的な評価を即日公表している。

平成30年6月18日に発生した大阪府北部の地震（M6.1）により最大震度6弱を観測したことから、地震発生の日日に臨時会を開催し、地震活動の状況、地殻変動、発震機構、周辺の活断層帯の特性のデータなどに基づいて、発生した地震の特徴、地震活動の見通しなどの評価をとりまとめた。

2. 地震発生可能性の長期的な観点からの評価の実施

地震調査委員会長期評価部会（部会長：佐竹健治・東京大学地震研究所教授）は、その下に設置した活断層分科会（主査：岡村行信・国立研究開発法人産業技術総合研究所地質調査総合センター活断層・火山研究部門首席研究員）、海域活断層評価手法等検討分科会（主査：岡村行信首席研究員）、海溝型分科会（第二期）（主査：佐竹健治教授）とともに、活断層で起きる地震や海溝型地震が発生する可能性に関する長期的な観点からの評価（長期評価）を進めている。また評価手法の高度化や公表方法の改良のための課題解決に向けた検討等も行っている。

陸域の活断層で起きる地震については、当初の予定より審議に時間を要しているが、平成22年11月に新たな評価手法としてとりまとめた「活断層の長期評価手法（暫定版）」に基づき、四国地域を対象に、陸域及び沿岸海域に分布する、M6.8以上の地震を引き起こす可能性のある活断層について総合的に評価する地域評価をとりまとめ、「四国地域の活断層の長期評価（第一版）」として平成29年12月19日に公表した。現在中日本地域を対象に評価検討を行っている。

海域の活断層で起きる地震については、活断層の標準的な評価手法を検討するとともに、日本海南西部の活断層及び海域の地域評価の検討を行っている。

海溝型地震については、日本海溝・千島海溝を対象に、東北地方太平洋沖地震のような低頻度で発生する超巨大地震を含む海溝型地震の長期評価に向けた検討を行い、千島海溝については「千島海溝沿いの地震活動の長期評価（第三版）」として平成29年12月19日に公表した。日本海溝については平成30年度内を目途にとりまとめ、公表予定である。

3. 活断層で発生する地震や海溝型地震を対象とした強震動評価の実施

地震調査委員会強震動評価部会（部会長：岩田知孝・京都大学防災研究所教授）は、その下に設置した強震動予測手法検討分科会（主査：三宅弘恵・東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター准教授）、地下構造モデル検討分科会（主査：山中浩明・東京工業大学環境・社会理工学院教授）とともに、特定の活断層で発生する地震または海溝型地震による強震動（強い揺れ）を予測する手法の検討や同手法を用いた強震動予測（評価）を進めている。その一環として、主要活断層帯で発生する地震や海溝型地震の強震動計算に用いる震源断層モデルと地下構造モデルの構築にも取り組んでいる。更に、主に工学分野で活用されることを念頭に、応答スペクトルによる地震動ハザード評価についても検討を進めている。

強震動評価部会では、今後も活動方針として、新総合基本施策の目標に対応する次の三本の柱を掲げ、克服すべき課題を抽出・重点化しながら検討を進めていく。

- ・強震動予測手法「レシピ」の高度化とそれを用いた強震動予測
- ・地下構造のモデル化手法の高度化とその手順等のとりまとめおよびそれを用いた地下構造モデル作成
- ・地震動ハザード評価手法の高度化とそれを用いた評価

4. 長期評価・強震動評価等を統合した全国地震動予測地図の作成

地震調査委員会では、平成17年に「全国を概観した地震動予測地図」を公表して以来、随時評価の改訂を行っており（平成21年より名称を「全国地震動予測地図」へ変更）、各部会や地震動予測地図高度化ワーキンググループ（主査：能島暢呂・岐阜大学工学部社会基盤工学科教授）で検討を行っている。

「全国地震動予測地図2017年版」（平成29年4月公表）の公表後、平成29年12月には新たに「四国地域の活断層の長期評価（第一版）」及び「千島海溝沿いの地震活動の長期評価（第三版）」が公表されたことや、約1年間が経過したことによる地震発生確率の評価基準日の変更を行ったことから、この間に得られた新たな知見に基づいて全国地震動予測地図を更新し、「全国地震動予測地図2018年版」としてとりまとめ、平成30年6月26日に公表した。また、公表に際して、わかりやすさの向上のため、初めて全国地震動予測地図を見る人でも理解が進むように概要資料の解説を充実させるなどの改善を行った。今後とも、新たな地震発生データや新たな情報・知見の蓄積とそれに基づく諸評価結果に応じて、全国地震動予測地図を随時更新していく。更に、新しい調査・研究成果に基づいて地震動予測手法の高度化を進めると共に、地震動予測結果の説明のわかりやすさの向上にも取り組ん

でいく。

5. 津波評価の実施

地震調査委員会津波評価部会（部会長：今村文彦・東北大学災害科学国際研究所教授）では、地方公共団体等による避難計画や施設整備等の津波防災対策の検討に資するため、津波の予測や評価のための手法や、その手法に基づく津波評価を中心に検討を進めており、平成29年1月にとりまとめた「波源断層を特性化した津波の予測手法（津波レシピ）」に基づき、南海トラフを対象にした津波評価の検討を内閣府と連携して進めている。

表1 最近の地震調査委員会の開催状況

開催年月日	通算回数	公表件名
平成29年 9月11日	308回	2017年 8月の地震活動の評価
10月11日	309回	2017年 9月の地震活動の評価
11月10日	310回	2017年10月の地震活動の評価
12月11日	311回	2017年11月の地震活動の評価
平成30年 1月15日	312回	2017年12月の地震活動の評価
2月 9日	313回	2018年 1月の地震活動の評価
3月 9日	314回	2018年 2月の地震活動の評価 「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」以降の地震活動の評価
4月10日	315回	2018年 3月の地震活動の評価
5月11日	316回	2018年 4月の地震活動の評価
6月11日	317回	2018年 5月の地震活動の評価
6月18日	318回	2018年6月18日大阪府北部の地震の評価
7月10日	319回	2018年 6月の地震活動の評価 2018年6月18日大阪府北部の地震の評価
8月 9日	320回	2018年 7月の地震活動の評価

表2 最近の地震調査委員会関連の公表状況（地震活動の評価以外）

公表年月日	公表件名
平成29年12月19日	「中国四国地域の活断層の長期評価（第一版）」
	「千島海溝沿いの地震活動の長期評価（第三版）」
平成30年6月26日	全国地震動予測地図2018年版